

今も伝承される災害の記憶

災害の記憶

日々の生活の中では、過去の災害を忘れてしまいがちです。ニュースになった災害には注目しますが、時を経ると危険意識も薄れてしまいます。身近なところにある石碑や石仏には、災害の記憶が刻まれ、失われた命への鎮魂の思いが託されているものも多く残されています。

飯田市野底

夜泣き石

野底川上流の山崩れによって土石流が発生し、この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長 7m にもおよぶ巨石が運ばれてきた。土石流によって運ばれてきた巨石の下敷きになって亡くなった子どもの泣き声が聞こえてきたため、供養のために石の上に地蔵を祀ったとされる。



高森町出砂原

夜泣き石

大島川上流から流されてきた高さ 3m の大石。受難者を供養するために二基の地蔵があり、夜泣き地蔵石とも呼ばれている。



飯島町本郷

隅之木碑

未の満水では与田切川が氾濫し家屋も流された。人々は小高い場所にあった「隅之木」と呼ばれる周囲 6m ほどもある栗の木の下に避難して被災を免れた。木が枯れたため、この木の恩を後世に伝えるために所有者によって建てられた石碑。



飯島町田切

太子堂跡

中田切川でも氾濫がおき、飯島町田切にあった聖徳寺の太子堂が流された。堂内には、聖徳太子自作といわれる太子像が大切に安置されていた。1717 (享保 2) 年、中田切川右岸段丘上に聖徳寺が再建されたが、その土地も洪水により運ばれた大岩がごろごろとあったため、新しい寺の名前は「石上山太子院聖徳寺」となった。1971 (昭和 46) 年、太子堂の跡地には「聖徳寺跡」の碑が建立された。



飯田市川路

飯田市川路の浸水域の記録として、「北は正清寺高台の石垣半ばまで、久米川橋以西、古寺下の叶屋清水、南は中平の平坦地、大荒神の大榎の株元まで…浸水した」という記録が残っている。

大エノキ



大榎は枯れてしまったが、復元され守られている

正清寺跡

三六災害の時に被災し本尊や石仏などは竜丘の開善寺に移された。もとは下伊那の最南端で天竜川に最も近くにある前方後円墳の場所であったが、1864 (元治元) 年の敷地造成により、現在残っているのは墳丘のみ。



現在残っている墳丘

被害の跡の残る寺の石段
現在は残っていない
(写真出典:伊那谷の土石流と満水)

高森町出砂原

三界萬霊塔

未の満水で亡くなった多くの人々や獣などの冥福を祈る言葉が彫ってある石碑。松岡山安養寺の了溪禪師が建立した。



六地蔵

六地蔵は宝永年間 (1704 ~ 1710 年) に建立されたが、未の満水で流され、1841 (天保 12) 年に再建された。三界萬霊塔と同じ場所にある。



飯田市

伝承される民族芸能 お練り祭り

飯田町を守護する神社 (鎮守) とされた大宮諏訪神社の祭礼として 1652 (慶安 5) 年に始められたお祭り。その後五十余年の間中断された時期もあったが、未の満水の折、住民が大宮神社の神明様に加護を祈願したところ、幸にも飯田の町は泥の海となる難をまぬがれた。そこで、人びとは感謝のため、中断していた祭りを再興し盛大に奉納するようになったと伝えられている。

1734 (享保 19) 年より 7 年ごとの大宮諏訪神社の式年祭礼となり、祭りの名のとおり、大勢の人が街に出て練り歩く華やかなお祭りである。



出典: 飯田商工会議所